

正智深谷高等学校特別コラム

Mind Charging

Since 2020

第267回

佐藤二郎

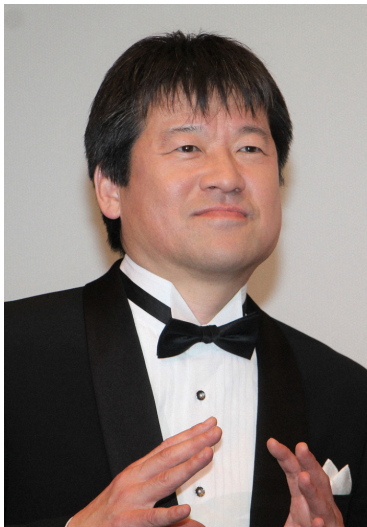
の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年8月16日

編集委員：入試広報室 鈴木

今回の言葉



若い方々に限らぬと思うが、親御さんの生年月日が分からぬ若い方が多いというのは、ホント正直な印象。それくらい、ホントそれくらい、知っといた方がいい、と昭和の説教くさいオヤジにはなりたくないと思いながらも思う。だってさ、君が誕生日を知らない、その親は、君の誕生日は死んでも忘れないよ。

佐藤 二郎は日本の俳優、脚本家、映画監督。フロム・ファーストプロダクション所属。身長 181cm。愛知県春日井市生まれ、愛知県東郷町育ち。愛知県立東郷高等学校、信州大学経済学部卒業。

Column

どんな役でも佐藤さんの色を通して表現できてしまう『個性派』という呼び方がぴったりな俳優さんだと思います。個人的には某牛丼チェーンのプロモーション動画が面白くて大好きです。ぜひ検索してみてください。

今回の言葉は、親子の愛情と尊敬について改めて考えさせられるものであり、人生の中で『当たり前なんて無い』ということの再確認にもしていきたい言葉だと感じています。時々テレビや SNS などで見聞きすることもあり、知っている人も大勢いると思いますが、『当たり前』の対義語を知っていますか？それは『ありがたい』という言葉です。

“当たり前”とはあることが常のもの。対義語は、あることが常でない。つまり『あることが難しいもの=有り難きもの』ということです。そういう意味では、今回の言葉から察するとみなさんの保護者の方々は、我が子であるみなさんが誕生してくれたことにありがたさを感じているわけです。みなさんが生まれてきたことを奇跡のように感じ、自分のことは二の次にして宝物のように今まで懸命に育ててくださった人に対し、その無償の愛に感謝することはあっても当たり前だと感じるのは“親に甘える”ということとも違うと思います。

今あることが当たり前ではないこと、多くの支えがあって今の自分があることに“感謝の気持ち”を忘れずに日々を過ごしていくことが重要だと思います。学校でも家庭でも、“誰かと過ごす”ということは、そういった心遣いなしでは成立しません。あなたのために多くの人が心遣いをしてきています。あたたかな心の繋がりを持って素敵な時間を過ごしていきたいものですね。